

貝畫浦子錦  
天

124

庫文閣内		和 書 類
九 函	二 六 四	
四 架	三 冊	二 號

内第... 書... 函共

庫文官政太		和 書 門
	二 六 四	
三 冊	五 八 二	九 四 三

内閣文庫	
番號	和 11642
冊數	3 ( 1 )
函號	197 124

197-124



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



固

今譜浦之錦小序

妻ヒタリ兮ヒタリ成ハナ是ハナ貝錦ハナ詩ハナ少ハナとハナこハナりハナ後ハナ此ハナ國ハナ者ハナ十ハナ七ハナ年ハナ  
 ありと玉やひ後ハナりハナんハナ貝ハナやハナ花ハナりハナんハナとハナ後ハナ一ハナ多ハナ昔ハナ々ハナりハナ  
 賞ハナ人ハナ場ハナ一ハナりハナ古ハナ々ハナりハナをハナ風ハナれハナまハナおハナくハナ吹ハナらハナるハナ風ハナのハナ海ハナも  
 拾ハナ集ハナあハナてハナ此ハナのハナをハナけハナあハナまハナくハナ海ハナ士ハナれハナ子ハナ浦ハナ人ハナ一ハナりハナ石ハナをハナ同  
 好ハナあハナのハナ人ハナをハナ後ハナとハナ倍ハナをハナ心ハナ一ハナりハナ古ハナきハナ又ハナまハナまハナらハナりハナとハナ考ハナて  
 みハナらハナりハナあハナまハナるハナ後ハナ一ハナりハナまハナのハナ年ハナをハナ後ハナてハナ二ハナ年ハナ中ハナまハナらハナりハナ思  
 介ハナ播ハナとハナ号ハナ一ハナりハナ多ハナ量ハナ小ハナ納ハナりハナをハナ取ハナぬハナまハナらハナりハナ美ハナ茶ハナをハナ後ハナてハナまハナ合ハナ  
 小ハナ豆ハナのハナ啼ハナをハナやハナむハナ於ハナ脚ハナあハナまハナらハナりハナとハナはハナらハナりハナとハナはハナらハナりハナとハナ  
 大ハナ枝ハナ流ハナ芳ハナ自ハナ序ハナ

巳巳姑洗吉辰

大枝流芳自序



貝錦浦之錦卷上

らん  
り  
り



おれ  
ち  
色  
はく  
貝  
少  
浦



凡例

○今ハ惣名ナリ其中異類多ク此土ハ貝を以て惣名ト  
 するハ誤也貝子ハ今の中ハ一物の名今云キテウケイ子安  
 びヤト云ルモノ也此貝ハ古ハ寤トシテ用也寤の介レ  
 長ク因ケテ去ハ惣名ニ此字を用ルモ也ヤチヤア  
 此書古キ志スギハ惣名ハ今ノ字を用也

○本州綱目四十又卷介奥の部ありも其中二つは電鱈と云  
 軒蛤と云る所極難ハ此書ハ取テ取テ取テ軒蛤の類ニ集綱目  
 集る處の軒蛤二十九種あり也季末秋をのり

○相貝經ハ貝子の種類を論じ其用ガ一トハ古キ貝を  
 論るハ古キもの也因テウケイノ金一冊此去ハ流る

○先軍の介ノ一言ありもの悉ク取捨して  
 くに採也

○夫ハを弄多ク古キハ只蛤の大ナルと云百六十と云  
 其書に於ルハ中を編を以て總一金銀を点ト五彩の畫を  
 ほととに六角の筭小納て其書を合を以て見女の教と云未  
 そろくの介を何者用也其書を合を以て見女の教と云未  
 け弄おらして都全ク付行と賞賚金家古人の見と云み  
 とも古キ書に集る四條大納言公任の撰ひあり二十六の  
 教の教ハ配一と云はるは二十六教ハ今とはして云ヤハ

そのときとて集りてゐるが不審なり。因て後  
を考て新撰の秋仙介世に行る。後秋仙集序中  
見えたり。その後千六百とあり。今按る。後撰一  
委し取用す。

秋仙介の集撰者姓名。次近身女の  
とて何をぬ百人一首の書れ上層は合刻して世に  
傳字の傳多し。余別小書本の写す所あり。

○網目曰蚌與蛤同類而異形長者通曰蚌圓者通曰蛤故蚌從  
羊。蛤從合皆象形也。後世混稱蚌蛤者非也。今世從  
長と蚌とを圓と蛤とを長と爲る。是は誤り。圓と長とを  
蛤と蚌とを

又麻とを云又一片を對のり。石史の類也。又異形の類  
今蚌蛤螺無對異形の五品とりのち記と又一種貝は類を  
合て六品なり。

○今又又十種の源氏貝あり。是を考ての帖敷に配し。名を今  
おるもの。又淡去産より貝を小倉の山莊に百首を配し。今  
へん。後にも古より何きの介を以五十帖に配し。百首の  
も定例なし。又十色百色と集りて只を教ふ。今余五  
介はよく定まる。因て秋仙を以弄貝の表に志し。秋仙  
古書にまう。好みも推し。今も秋を撰入る。今余五  
種撰て源氏の帖敷に南の石目。中よ志し。源氏介と

云り、後方仙の序中又云る

○今の衆類甚多し耳目の及ぶ採摭をといふも毒天下の地  
直ぐきよあつた後の博覧人とのつ

○今の名實あつては古くは名一際なりは多く雷因と又一物中変化の原莫可名状

の今に至るは名一際なりは多く雷因と又一物中変化の原莫可名状

後の人強て名と今流の方言の俗稱の將名を悉及可集といは

是又直ぐきよあつた後の博覧人とのつ

俗稱異名混因の呼ぶ其下附に款名形状名を不出可分は

○前後の記今二組の文并圖あり此書附編して余別あり

その記只名目と載て雷因の評と挙げ

貝書浦乃錦卷上

目錄

諸説

和歌北浦真圖

歌仙貝遺漏百餘品

住吉浦潮干の圖

前歌仙貝三十六品評

但馬竹野浦真圖

後歌仙貝三十六品評

源氏今配當目錄  
新撰六款仙今

貝盡浦之錦上

諸款

介ハ艶光あつて大なるは色分ぬ小白きとのハ潔白よ  
赤とれハ深紅小斑文あはりのハ何ぞやのなるよりハ料蛤乃  
類お合さるるとのハお片おあして不離ぬるをよりとと  
又殼舟の介甚小く小豆米粒のこくも見るふよるは五苗後  
十苗積れ大さも大なりとありハ只殼豆の大さはとくたるを  
のたつととひ動しハ生質大なる介何ぞ生得小なる介  
小ぬるハ大なる人を撰ひ大あるハ小ぬるをよるはととと  
集てとと形大やととよととと甚得か

綿介ハ雅歌の介れ王なり... 丹後但馬乃... 海邊不出るものよ志くハ船し紀州... 内海多きは好介也... 紀州和赤浦荒濱加左の粟穂北濱... 介多一泉町の海辺ハ好介なり... 多一丹後右教濱野津濱也...

至るは拾ひ一人よ... 相州 濃倉雷の下れたる... 賣家多くもくけ地はむう... 介あま... 寶永正徳の以紀州初およ至... 色ぬきハ抽多く... 多一近來ハ文華さる...



より浦人多く集てあひま南ふお款仙よりて名を呼款仙なり  
 ところそのいふあぐ付一岩多くをへてたが種なるべ  
 但州小至お村或人乃物種ふは日拾貝と云人あつたま  
 諸島の海邊をかんぎや行脚して介をむろひてとくわまふ殻より物種  
 揃一なり珍一た種人ぬり此癖の膏膏よ入一人  
 なるべし但州もあつたり一す一かり  
 海は潮目より十又日とはひる昼潮あつたり介をやき  
 下す又日よハおぐむきかたきか介拾たる一海は多くを  
 船より日中との間ぐよ一晩方ハ多くはむのあなり  
 三月三日ハ大瀬乾るゆな州の車渠介の下も又一き

貝も七日ハ世ふおるよく大ぬの乾る日なりけ日別一介類  
 多くをやき

慎懋官が花本考小螺多種掩白而香者曰香螺殼尖長  
 者曰鑽螺味次之有刺曰刺螺其味辛曰辣螺有曰拳螺劍  
 螺斑螺丁螺云々ていらいりあの殻を長くみやくをりあむとの  
 ころちよくとる

海人傳

八



和歌の浦の風

布川松

所旗所

石倉

石倉

土清

天神社

和行所

東照宮

伽羅山

玉澤社

下川松



和歌の浦の風

海取

妹背山

石倉

石倉

石倉

石倉

歌仙介遺漏名今百餘品

能介

蚌類 鶺鴒の羽たどく地色赤くかへ褐色は雲の斑文鶺鴒の

生れどし蔭さるゝ私あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

香牛花介 和名あまのち

螺類 形田子よ似まろすくも色あざぶのまろく

世お平色とたぬうとよ好介なり私あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

拳螺と云換なる 本州云青螺色如翡翠

紋様介 和名あまのち

蚌類 地白く紅のまろくあまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

こまいかり多くいぬぐし私あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

月日介 嶺表録異記号海鏡

蛤類 ころく丸一片赤く片方白く因る月日乃名

因あまのちなるとの多くあまのちの蚌私あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

け浦よ、私し他あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

羽子介 和名あまのち

蚌類 雲白くしる蔭さるゝものねれ形のみく但州

多し私あまのちおよ捨石の海辺まもあかも色忍

海雲介 和名あまのち

蚌類 わづのりい まる形あるれど一頭あねあり尾の方を縁のり

色白し片や片し先づりし貝なりおろより出ふ

葵介 あひのけ 百貝圖海馬家と云

螺類 らのりい 大なるもの多しふきものも稀し小も蟹三粒

の大さなり わかあしたとあひの わひれはあのとくさざりあつり

右と左と白くかきすまうおろくまれやき

本州云鶺鴒螺と云その  
足がくらくもろくもろく

章舉 たこ 舩

螺類 らのりい 色白し先がうらうら わかあした葵介の  
蟹介と云なり 面白介なり

かやれ形なり是も鶺鴒の類なり わかあした葵介の  
蟹介と云なり

駒が爪 こまづめ おお浦の名

蛤類 がいのりい 色白く褐色の斑紋ありたてよまどぬく入る

昔は和名の浦にて秋田の中の磯貝と  
こぬが爪と云り今いふうば貝と云也

蟹の爪 つめ 和名浦の名又はるのそと云おもなり 百貝圖勢ト云

異類 いりい まきハな州ふける地脚なり岩不付て海俗称

志いと云大和が草ふもとんえくく地のもとも云なり

のりりやるをれなり加ち多し

めくハトヤ 三才圖會云江撓又号指甲螺

蚌類 がいのりい 長さ七八分斗たけげは似たり色まろくなり

備前牛窓ふ多しおまハな おまハな

胡蝶介

和名浦の名 百貝圖ニ云玉貝正 眞珠是ニアリ

蛤類

内あつびのどくえり介あつびくうと白く馬身

斑点

形胡蝶のどくえり介なり

常介

和名浦の名 百貝圖ニ並圖ノモノハ黒也

蝶類

依祿がんらと云とあつちいさく内あつびのどく

えある

と云介ハ黒くわとり 蝶の類なり

延介

和名浦の名

蝶類

びしろを織がごとく 延介小あつちいさく地き

白く

褐色の斑点あり 蝶の類なり

山多介

和名浦の名

蝶類

かーとてなり 横は薄く 筋あり 地白く 山多の

ぶと

なる色の斑紋あり 蝶の類なり

蘭

蛤類

あつちいさく小介あり 地白く ややくばさたの

らつちいさくやあり 葉貝あり あつちいさく

香若介

異類

是ハ海栗のちりちりなるをみく 和名浦の名 今

じると

えへり中の内海産とて 蛤なり 色黄なり 介ハ栗の

ごとく

いがある 是香若介なり いがの下は又皮あり 介れ

あつちいさく

甲介と云とのちいさくあり

海菜骨

百貝圖 総角 青壳貝氏

異類 海菜骨 百貝圖 総角 青壳貝氏  
この貝は川原始小園の網目ものせ  
たり大和牛汁をとりける時ハとみぢの皮はと肉去て殼を  
せむむいれこの殼かりけるをせんでと殼をさかちやう介と  
煮ふたきやうの花をた彫刻せむごとくも多きもの  
採るに時あそ多し異めなり

紫介

和方あしの名 百貝圖ニ飯櫃貝ト云

蛤類 紫介 和方あしの名 百貝圖ニ飯櫃貝ト云  
お美しく肉は紫なり牛汁云紫貝より又一種  
中の唇又細きまはり小兒おまらぬまばさらはとかな  
ぬり表は地白小紫の紋もよりの紫介と云わり後お他よ

入お世介是よりまよふ世介ハ始ま世介又ハ

蛤類

お仙の仲小入は世介ハあめなり

すじきくあつけひめきとれいもぐぬくきとやう小世介の  
どくがるものなアア小介なりまうよくやにした介なり

甲介

うにづがうのそ 百貝圖ニ並輪子ト云

異類 甲介 和方あしの名 百貝圖ニ並輪子ト云  
かきむし介の下小弁どろがじし海菜の殻と白さ  
まきあう甲介のまはれたまらう異おなり大小教種なり

紫介

和方あしの名

蛤類 紫介 和方あしの名  
かきむし介の下小弁どろがじし海菜の殻と白さ  
まきあう甲介のまはれたまらう異おなり大小教種なり

匍介 和名の若 百貝圖三能貝

螺類 らのもい きんけのこれごとくさたさうも長しいろは褐色のまじり

くまがまじりたてまじりあまじりハ和名浦あしうしと云

迎來たけのこ介と云まじりハ稚みまじりふよりて石と名鐘螺の類

松虫介 和名の若

螺類 らのもい 色まら虫たぐたてまじりりま横みすじあり

髯もあまじりよれた介あり

牛乳角介

異類 いらい けしの角れごとくさた方のこごちふ口わり紀州

瀬戸より寄廻るふも稀にあま色白し又うと福をとも

異物 いぶつ かなきどもいやしうのぬ介なりたてまじりあり

玉棧介 和名の若 又白棧介とも

蛤類 がくのい 雪白白玉棧の葩一川為しむらじ棧なり介

丸くしておろし入る中為し

糸の巾介 和名の若 百貝圖よハ拾貝

螺類 らのもい 色白くもてあまじりこまじり入て糸を以て

ゆくがごとくまじりあまじり入れた介なり和名浦よ寄

酢介

屬也 しんがく 和名想須の介の脚なりあまじり白くまじり

あまじり破を入きまていけは法ありまじり

あゝは得じしとまると本州よ云高君子相思子是なり  
きあしと今

無對換白き小介ぬく為く強ぢじのどし片方かゝる  
縁角介

異敷 ちさく今之えくされくおち下をうあ  
しとまると又うよ花れどく割かせるがどし異物也

曲今 大和州の石 和歌のいぢや今と云  
百貝圖ニ濱草ト云

異敷 本州の石蛇ぬくはぶるもく腕のどし多

尾なり一掃は尾のふもあり異物なるも多  
又かくらうまむるもあり各の各白くしはあつても

くぢや今 和歌浦の石

無對換 是はよめれかじ今之換なりくぢや家と違なり  
色くとも白く又膚ももある面なきものく縦横小

まじり

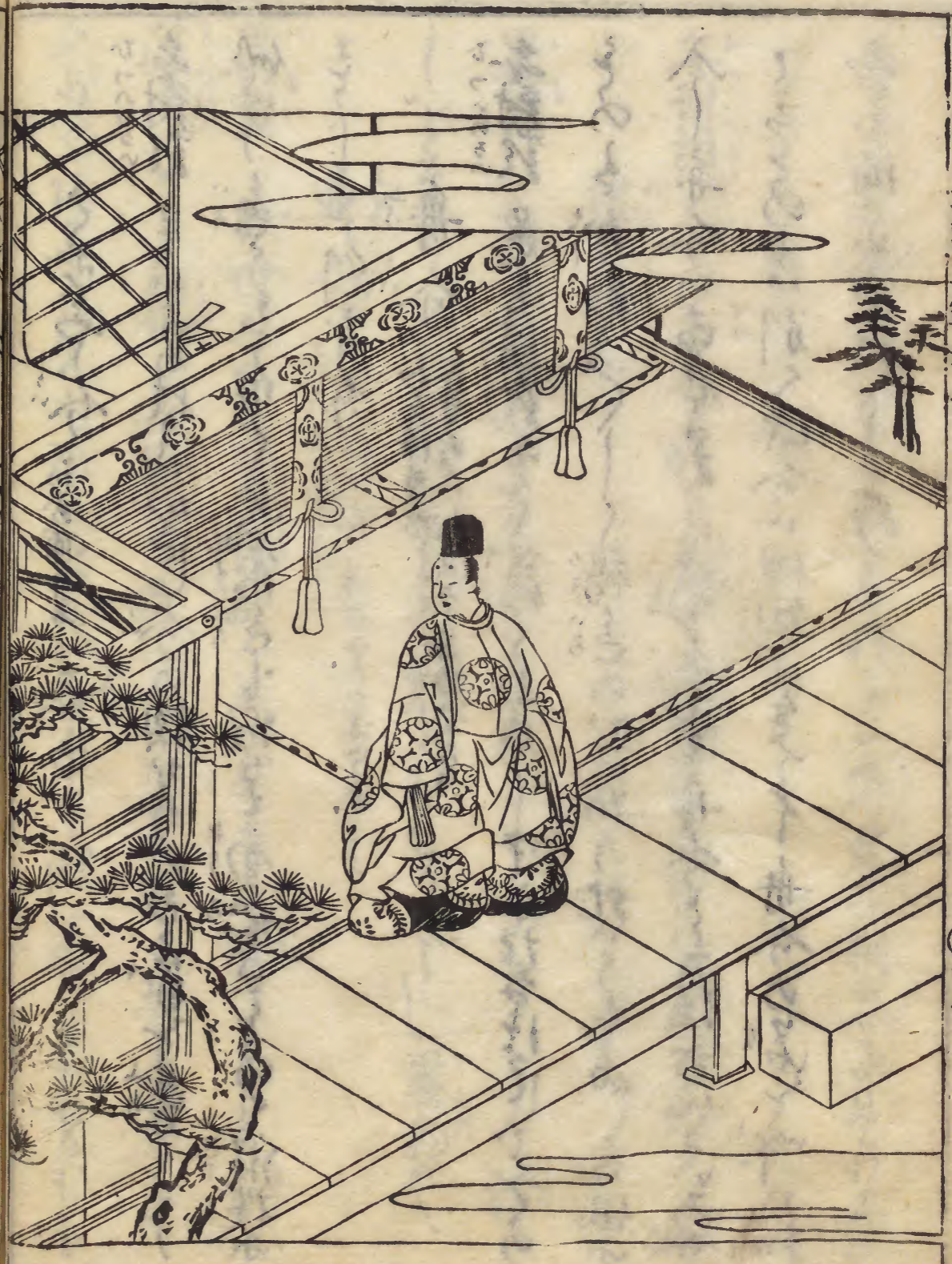
舟介 和歌浦の石  
百貝圖ニ松貝クくる頃貝氏云

無對換 是も同敷少く為くあさ中おたはほじとく  
そのまがわくく襦袢のかがり地を白くおは

入一舟介はさきよあはは前おは舟介と云後おは舟介  
とらきよと別けけ今之細別は多一舟介の石と叫ハ知

舟の浦あはれりぬ





蛸蛤介 わか浦の石

螺換 もてふく 産るぐらから尾同しぬとさし絶はし  
地うとがさし細い白く産るあらが介介はなす——只  
わか浦の石より

巻糸介 わか浦の石

螺換 長て打る 産るさきさきまた巻糸のおとさしたる  
色うとがさし色なり

蒲菊介

貝類 貝子の小きうすたよのぬどりのあうく 製せし  
どくもたぬく小介ぬくもぬりした介なり

貝子 こまどふい たいらうい 選貝とも云う——百貝の圖より云う

是は古へ産る——交易お用し——そのわらと委ハ貝類  
本州のええうり積世よりきく貝子とると天竺のし目人を  
さうり器石れとしてかりきやもぶと云え積のやうな用也と  
なるも色はいろく何う東海夫人の類く婦人産るふらよ  
さうりせハ安産とると云う因てこやとがいと一と産もけ説  
本草よハ産し此土の俗説なり信方ともよ多く何う

産るたると わか浦の石 百貝圖ニハツバメ介を産るうと云ふ誤し  
右石はきくよえハう

螺換 色白く細く何うさきさき横よ入もいなる介なり  
多くハ水し此石も産るは別なり石をもいへきとのく

此の貝は甲壳の硬く、肉の厚く、口の細く、殻の形は、

孔雀介 黒者

蚌類 みる介 かくと介の殻は、

より、その殻は、吐撥、

あまみ介

螺類 色 いろく、

は、殻の軟く、

ゆる介 か 竹やと糸、

車介 和名

螺類 色 赤、

うらぐへし 足 車、

刀介 和名

蚌類 是 中、

張、

点、

石介 和名

螺類 色 赤、

云、

よ、

釜介 和名

螺類 らのるい 口大きほて冷のどしあわしく横節あり中貝好  
よれたまのあいらんじ

瓢介 きょうけい 二種者 百貝圖ニ九キ方ヲ文殊貝ト云  
又色黒クコキヲ油貝ト云

拾類 しゅうるい 二種あり一様ハ色瓢いろなりより若とさるは

近江和お浦あり云瓢介ハかー長てたるぬれた介よきてふ

節あり入色うとがきこなりさるはさほめ介と云ぬい

唱介 なうけい 和お浦の石

螺類 らのるい 丸きやうなる介 層とよれた介とてふ介乃螺類なり

あうの外巻入かーハ如し

善介 ぜんけい 二種 百貝圖ニとらめの方と相見ト云

一様ハ軒類 けんるい 介た介の形小細く大介なりたまみのどく

節ありと白くききうつるありあり介あり

一様ハ螺類 らのるい ぬれたる白介介は横小節ありてありこれ

和お浦あり云若くはともあの方 形状善小く細くけりけり地つた

漣介 れんけい 百貝圖ニ余貝ハ楯貝ト云

軒類 けんるい 白く横長く横小なりたどく細きくむく入る

介なり中介小介はあり

千歳介 ちとせけい 和お浦の石

螺類 らのるい 小介あり地と黄少く福との横節を地ありてある

さんちう介 さんちうけい 和お浦の石

螺類

みじかく赤く福さく用一色中たさ少紋を結介おたは

吹介

お仙入 百貝圖くかの貝も

蛤類

お仙の中とと連介と云又赤介ハ別あり

かろか

螺類

あまいた若なり昔より名を呼介と云く下中と云り

あま

まくわける介ありいやしくあかうと思その大和がま

かろさいと云その是なり

鞘介

蛤類

後お仙入花介なり白くもどきくまかぬやの

ととろれととこれと花介と云ハ誤なり

千色介

和を浦の若 お仙入

蛤類

おた介と云

玉介

異名く お仙入

螺類

俗稱はへつるおお仙入の介を結つとくあり

滑なり多き介ありと云つた色

やろ介

異名わかんえりお仙入

螺類

俗稱うづ介後お仙入の世貝あり

八鬼介

百貝圖云片都貝角片都氏云或ハ雲貝と云り

螺類

お一げなるやうな形おとた負なりわろくは

介なる地白くは意のかとりと角ありさぐの類下品

山椒介

螺類 大さはんせうのどしきも赤く乾山椒のぶく〜大和  
なまゆとえへり豊前國藍濱より出細川三軒子名と対し  
とまり和名ゆし云々のいそよ何れど余考あより考とのを  
西持をきや〜やする介ぬ

鏡介

和名ゆしの名 百貝圖にも曰名

蛤類

梅花介の大方をと和名浦ゆ〜鏡介と云

長辛螺

百貝圖ニ香螺長螺よなき貝とも云

螺類 ながたゆまりからるもどしのどくもく縦横筋  
ら〜地〜を白くが〜褐色の〜の〜

磯介

二種

一種は〜対 ありぬよ入信祿よめぐる〜 又和名単白  
よめががさわあゆし和血とも云々のぬ  
一種は螺類 かんぐ〜と保めまとの証云ぬあゆ  
かま〜介

螺類 出てける中貝なりい海お〜人の〜 して小葉  
入は〜あ〜かき介なり

笹れ

一名亀介ともわお浦の名

異類 白く層き小介 光あ〜飛の〜ちよ似えむし  
和名ゆ〜飛介と云り今い〜の〜と云

紅貝介

異名アリ 赤い貝 百貝圖ニ片貝 紅葉貝 馬のくが

無對類 おおゆい入か〜介と云ふあがらりの類なり  
こみぢのふけ〜  
聞書云石磷形如若葉殼上肉下以介なり

伴海養

和名浦の名

并類 後おゆい入あ〜いとき

口切介

和名浦の名

螺類 竹子介のふたを云わおゆいの若く筒介といは軽く別種也

抜介

貝類 貝子れ片方よりあは〜  
くは出るよを織ひの〜色い〜かきいりなり

猿のか〜ら

和名浦の名

蛤類 ちまよ云 魁蛤のこまよと云あつ今のふ〜なり

とも倍小云なり

千敷介

和名浦の名 百貝圖ニ合貝ト云

螺類 わりき冷の〜  
螺類 大和木竹 螺と云は是なり

夏桃介

和名浦の名

螺類 たふ〜のや〜  
是あ〜と云貝なり〜

かや介

和名浦の名

螺類 厚き介なり程に地うと白くかまの斑点ありて  
つらた介なりとも滑なり

女前花 和名かて系珠介と云

蛤類 形も色も概介に似る層一大小を個州は多し

和方浦より系珠介と云い大なる俗名し

岩海蔵

螺類 考小思のまことぶいよ志海蔵の紋もと云い色か

編笠介

異類 大きハ和名あや名付しと云なり形もよけれ

たども介の類も又えは石燕石花の類中し異物なり色も

はよ和名けららのやうなるおきあきなりとも異物也

岩幸螺

螺類 ぶい〜〜ぬき〜〜いぐま〜〜色は〜〜ゆ〜〜ぬ介也

櫻烙介 和名その名

螺類 形状もあつたれは〜〜い〜〜い〜〜い〜〜なり

蒼蒼介 百貝圖賀賀貝ト云

異類 一進ハ介も又えは魚物のやうなるものあり又魚也ふも

わは〜〜志かでの類〜〜や〜〜が〜〜は〜〜る〜〜く〜〜色白〜〜あ〜〜い〜〜なれ

た〜〜し和名の浦より出〜〜二〜〜は〜〜中〜〜の内と云あ〜〜ひ〜〜い〜〜る〜〜く

石形介 百貝圖 富貝ト云



螺類 艶光りたるをがめりし中分なり小分小分は更味めて海苔が  
ことくむらま又潔白なる大筋ありてえりきり分り稀なるものこ

網介

異類 老びしたるなり色濃紫あみのとくさう一何  
竹の浦小出稀なる白きもの何れも金さい分とえは多く被る  
わす大なりなりおぼろ

巻絹

螺類 白く滑なる介とせてなり稀なり大小あり

積介 和名浦の名

貝類 片方よりまた色小介なり白く為しおぼろ竹の浦より

絹けみ

貝類 上進いひ介のあふ小出角ぬらものなりうい  
こぬつこぬつ介同様小種なり

産介

蚌類 厚く白くするのわがものぶと一産介は是と標介  
とら名介入ハねとくハ標介

烏帽子介 百貝圖 介貝又烏帽子介

蛤類 白た中貝をが一のとし竹の浦多みいばくし  
名介あはらう

萩の露

螺類 らうのらひ 虫てめく白と地は黒のからまはせやあつたあつた  
かり小介ぬりもあつした介り

苔衣 こけころも

各對類 わがたいのらひ くさくさ色くひきぬり介の類く

白米 しろが

形 かたち まつた介の小貝は白きと赤とをすか介と云ふ

蘭書曰米螺小粒如米と云ふ

雪 ゆき 百貝圖 傘貝一云

各對類 わがたいのらひ 雀介より形くさくさくひき梅花介は似て雀介の

ぶくさくさの白と色變白かり小介ぬり

